

令和 6 年度 学校経営計画書

学校番号	31	学 校 名	静岡県立清水東高等学校	校 長 名	井島 秀樹
------	----	-------	-------------	-------	-------

1 スクール・ミッション

普通科と県内で初めて設置された理数科を併設する文武両道を目指す学校として、文理の枠にとらわれず、SSH 活動で培われる科学的思考力や探究心を養う教育を通して、国内外で活躍し、社会にイノベーションを起こすリーダー人材の育成を目指す。

2 目指す学校像

(1) スクール・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	カリキュラム・ポリシー	アドミッション・ポリシー
科学的思考力や探究心を養う教育を通して、国内外で活躍し、社会にイノベーションを起こすリーダー人材を育成する。	SSH 活動を軸に、論理的・科学的・探究的な学びと活動を通して、生徒の自己実現の道筋を明確化させる。	校訓「金剛の意志」の実現に向け、探究活動に積極的に取り組み、グローバルなコミュニケーション力を伸ばし、地域や国際社会での活躍を目指す生徒を求める。

(2) スクール・ポリシー具現化の柱

- ア 安全安心な学校
- イ ICT 教育の推進と教育アプリ等の活用
- ウ 授業力向上と新学習指導要領に対応した授業
- エ SSH 活動の深化・充実
- オ 健康でたくましい心身の育成
- カ 探究活動を通じた進路意識の明確化
- キ 社会のリーダーとして活躍できる人材の育成
- ク ワーク・ライフバランスの推進
- ケ 確実に効果的な学校事務執行の推進

様式第 1 号

3 本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

	取組目標	達成方法（取組手段）	成果目標	担当 部署
ア	いじめの根絶	・いじめ防止対策基本方針に基づく取組を実施 ・スマートフォン等の使い方の指導の充実、スマートフォン講座の実施 ・いじめアンケートを年 2 回実施	・いじめに対するトラブルの事前防止 ・いじめへの対処の確実な実施 ・ネットに関係するトラブル：0 件 ・「誰に対しても相手の気持ちを大切に接している」と答える生徒の割合：95%	生徒
	授業中、部活動中、登下校中(特に自転車)の事故防止	・学習活動に使用する設備等の環境整備を進める。 ・保護者と連携した登校指導の実施 ・警察と連携し、新入生に対して交通安全教室を実施 ・突発的事故を想定した講習の実施 ・熱中症警戒アラート発令時は、全職員に周知し、特に体育授業において適切な対応をとってもらうように体育科と連携する。 ・「保健だより」による安全の呼び掛け	・授業中の事故 0 件 ・登下校時の自転車事故件数 2 割減 ・職員対象の AED 講習会の実施 ・校内活動中に熱中症重症者を出さない。 ・「保健だより」毎月発行	生徒 教務 保健
	防災対策の充実	・C ラーニング、Google クラスルームを防災連絡ツールとして活用 ・家庭と連携して防災意識を高める。	・C ラーニング、Google クラスルームによる防災連絡（緊急連絡）訓練の実施 ・防災訓練を年 2 回実施	総務
	学校施設の環境保全	・美化委員会による清掃点検や呼びかけにより、校舎内を美しく保つ意識を高める。	・「ごみの分別・削減・環境を守る行動をしている」と答える生徒の割合：85%	事務 保健
	感染症の予防	・感染症から身を守る意識の徹底 ・毎日の健康観察・手洗い・手指消毒・換気の徹底 ・保健だよりでの呼びかけを随時行う。	・「毎日の健康観察や手洗い・手指消毒・換気を行っている」と答える生徒の割合：85%	保健
イ	BYOD による ICT を活用した授業の実践	・学習効果を上げる ICT 機器活用法の確立と円滑な BYOD の導入・活用法を確立する。	・授業における ICT 機器活用：100% ・教育用アプリ（ジャパナレッジスクール、ロイロノートなど）の活用：90%	教務 D X
	HP、広報活動による本校にふさわしい優秀な生徒募集の実現	・学校 web ページへの記事掲載を充実させる。	・探究活動を中心に教務部記事を月 1 回のペースで掲載する。	D X

様式第 1 号

ウ	主体的、対話的で深い学び、アクティブラーニングの推進	- 主体的、対話的で深い学びを意識した授業実践の充実を図る。 - 生徒による授業評価を実施し、客観的把握に基づいた授業改善を図る。 - 校内での授業交流や他校の研究授業等、様々な研修機会を活用する。	- 全教員が講義形式に依らない授業展開の工夫を実践する。(各自学期に 1 回以上) - 生徒による授業評価を年 2 回実施 - 年間 2 回以上、他の教員の授業を見学した教員の割合：80%	研修 教務 全職員
	4 校合同研修会の実施	他校での研修機会を活用する。	参加教員により、研修内容を各教科・分掌で共有する。	研修
エ	SSH 新制度の研究	学校設定教科「スーパーサイエンス」(総合的な探究の時間「清高未来学」の代替科目)の検討	- 年間の指導計画と評価法を完成させる。 - 本校の SSH の在り方、方針を立案する。	管理職 SSH 教務
	SSH 活動の充実	- SSH 活動の中核となる課題研究の充実 - 課題研究プログラム(新課程対応)の完成 - 各種発表会、コンテストへの参加 - 不思議実験講座等普及活動の充実 - 国立遺伝学研究所への訪問 - 認定枠への対応	「課題研究を中心とした SSH 活動は有意義である」と答える生徒の割合：80% - 不思議実験講座受講後、「理科がより好きになった」中学生の回答：3.5 点(4 点中) - 国立遺伝学研究所訪問(実施できない場合は代替行事)は有意義だった」と答える生徒の割合：80%	SSH 理数科
オ	欠席、遅刻、早退の減少	出欠統計調査を行い、過年度との比較を行う。	欠席数が過年度平均の 8 割以下となることを目指す。	教務 生徒 学年
	メンタル問題による不登校、転退学の減少	グループエンカウンターにより、初期段階での人間関係のつまりきをなくす。	「学校生活に満足している」と答える生徒の割合：80%	保健 学年
	部活動の充実、成績の向上	- 効率の良い部活動運営 - 外部人材の活用、「清高健児を応援する会」による適切な部活動支援	- 全国大会 5 部活、県大会 10 部活出場 「部活動が充実している」と答える生徒の割合：75%	生徒
カ	基礎学力の定着(校内学力試験の利用)	- 新しい学習指導要領に沿った観点別の学習評価方法を完成させる。 - テスト実施後の個票返却を通じた振り返りの活動支援 - 多様な生徒のレベルに確実に対応出来るための教員の授業力向上 - 全学年での英数国週テスト実施 - 特指、土曜講座等の適切な実施 - 外部教育機関の研修への参加促進	- 今年度の評価結果について分析する。 - テスト返却 1 週間後の個票返却 「授業が分かりやすい」と答える生徒の割合：85% 「指導のレベルに満足している」と答える生徒の割合：90%	教務 進路

様式第 1 号

	個に合った適切な進路指導、進路面談の充実	・新しい学力観や新テストの導入など高大接続の現状に対応した情報の発信 ・情報収集やデータ分析の生徒・職員への提示 ・進路目標を具体化するための大学訪問の実施 ・オープンキャンパスへの参加奨励 ・年間 3 回以上の面談を行い、進路実現を促す。 ・新旧担任連絡会の実施 ・校内進路検討会の年 2 回の実施 ・進路講演会の実施 ・進路目標を意識するよう目標点を設定した校外模試、ハイレベル模試の実施 ・プロフェッショナルと語る会の実施 ・SSH 活動を通した社会貢献の意識の育成 ・何をどのように学ぶかを考える機会として理数科では大学・研究所等の訪問を実施し、個々の進路実現につなげる。	・進路に関する保護者会を実施。目標参加率：80% ・オープンキャンパスへの 2 年次までの参加：90% ・「進路実現に向けての 1 年間の自身の取組に満足している」と答える生徒の割合：70% ・「新旧担任連絡会や校内進路検討会が進路指導に役立った」と答える教員の割合：80% ・「進路講演会が生徒や保護者の進路理解に役立った」と答える教員の割合：80% ・「プロフェッショナルと語る会は有意義だった」と答える生徒の割合：80% ・「将来の進路について考えている」と答える生徒の割合：80% ・「大学・研究所等の訪問は意義があった」と答える生徒の割合：75%	進路 理数科 SSH 学年
	個の実力にあった文理選択（1 年生）	・自己を的確に理解し、個に応じた進路目標を確立させる。 ・難関大志望者の意識を高める。 ・適性検査、進路希望調査、受験科目調べを行う。 ・「進路ノート」「進学資料&合格体験記」「最新大学情報」の活用 ・計画的な文理選択の方法の確立	・「学校で発行された『進路ノート』、『進学資料&合格体験記』、『最新大学情報』は進路を考えるうえで参考になった」と答える生徒の割合：75% ・不本意な文理選択となる生徒を出さない指導を行う。	教務 進路 学年
キ	生徒会活動、ボランティア活動の充実	・学校行事の生徒による自主的運営と地域との連携を図る。 ・各部活動単位でのボランティア活動への参加呼びかけ	・「学校祭に満足した」と答える生徒の割合：80% ・各部活動で 1 回以上ボランティア活動を実施した割合：80%	生徒
	研究旅行の充実	・普通科：日本文化の理解を深め、国際交流も取り入れる。班別研修では生徒が主体的に計画し行動する。 ・理数科：科学技術施設を取り入れたコースを作る。班別研修では生徒が主体的に計画し行動する。	・「充実した研究旅行になった」と答える生徒の割合：80%	学年 理数科
ク	休暇取得促進日の設定	・8 月 13 日(火)から 15 日(木)、または 19 日(月)から 21 日(水)の 3 日間を休暇取得促進日として土日を含めて設定する。	・休暇取得促進日に休暇を取得できる職員の割合：90%	管理職 全職員

様式第 1 号

	業務の見直し、スクラップの推進	・ ICT の環境整備を推進し、業務の効率化やペーパーレスの推進・牽引を図る。	・ 印刷紙の使用量 1 割減を目指す。 ・ 19:30 以降残留する職員が減少するように業務の割り振りを改善する。	管理職 全分掌 全学年
ケ	事務室運営の効率化	・ 効率的な事務処理を目指した業務改善を行う。	・ 各事務職員が 1 件以上の業務改善を提案	事 務
	法令遵守の徹底	・ 学校徴収金等事務処理基準に沿った業務処理の遵守 ・ 個人情報の適正な管理	・ 現金の適正な管理のために支払い、決算報告等はわかりやすい文書の作成に努め残金の迅速な返金処理等を行う。 ・ 個人情報の適正な保管による紛失及び漏洩事故ゼロ	事 務 全学年
	安全安心な教育環境の維持	・ 定期的な校内施設の点検 ・ 校舎改築工事は、学校運営と工事進捗の調和を図りながら、安全な教育環境を維持する。	・ 月 2 回以上の施設点検と法令点検指摘箇所のすみやかな改修 ・ 的確な移転計画資料を作成する。 ・ 計画的な備品等の購入	事 務